

審議テーマ	意見内容
情報面で配慮が必要と想定される障害特性の例	特性の追加 ○資料には入っていないが、特性の例の一つに発達障害も加えておくべき。 ○特性の一つに精神障害の項目も加えるべき。 ○情報バリアフリーの障害者の中には言語障害も入れるべき。例えば、吃音障害等だと、話せないとすぐ情報を得ることができない。
	視覚障害者 ○視覚障害者等について、(全盲、弱視、色弱)となっているが、かつて色盲と呼ばれていた人たち。ここはそういうのもあるので、色弱というよりは色覚異常というふうにしておいたほうがいい。 ○「視覚による情報認知が不可能あるいは困難であり」と書いてあるが、弱視、ロービジョンと呼ばれる人たちは、自分の適切な距離とか、適切な明るさであるならば、視覚での認知というのは可能な例もたくさんあるわけで、「不可能あるいは困難」という書き方よりは、例えば「不可能あるいは限定的であり」とか、そのような書き方のほうが正しい表現のような気がする。 ○現場における触覚・聴覚への情報提供のみならず、ことばの道案内といったような事前情報収集の支援に対するニーズも高いことを明記すべき。
	知的障害者 ○「ヘルプマーク、ヘルプカードを身に付けている場合は、対応のヒントを得ると共に、家族や支援者と連絡を取るようになる」という内容を追加すべき。 ○「初めての場面、初めての人が苦手なので、困っていても自ら人に困っている状況を伝える(相談する)ことが難しい」という内容を追加すべき。 ○知的障害者の項目に記載されている「送り仮名の併記」は、発達障害者にも有効である。
事業者等による取組事例	鉄道事業者 ○大きな駅を中心に、タブレット端末を使用して、文字だけではなく図面での情報提供をしている。
	バス事業者 ○バリアフリー法の基本方針に沿った形での配慮をするように努力している。また、事業者によっては、まだ定期観光バス、高速バス中心だが、多言語での案内をしている事業者もいる。
今後に向けた論点	まち中での情報提供の充実 ○外国人からすると、日本のピクトグラムは見にくかったり、文字そのものがUD化されておらず、たくさんあっても整理しにくく、わかりにくい、といった問題がある。サイン計画の中には、そのような課題に対する配慮も入れるべき。 ○ピクトグラムについては、適切な場所、という考え方はあると思うが、その中に「高さ」の概念も入れるべき。たとえば、子どもが見やすい高さ等にも設置すべきで、異なる高さに同じピクトグラムが重複してあってもいいと思う。 ○多言語で色々な言葉を並べるのは無理があるとなると、統一されたピクトとかイラストとか、写真とか、そういうものをどう活用していくかという共通したルールというのがあるのではないか。 ○地下鉄でのWi-Fi環境整備が進んでいるように、その場でアクセスできる環境も大事になってくる。
	ホームページによる情報提供の内容充実 ○視覚障害者に対しては、HPの充実が大切になってくる。特に、若い視覚障害者などは、HPで情報を入手してから出かけることが多いので、JISの規格に則っているかは重要。 ○ことナビやユニボイスなど、NPOなどは色々な取り組みを実施している。都のHPでそういったものを集めてPRしていくべき。 ○たとえばバス・鉄道などの情報について、日本では別々に案内しているが、ロンドンでは一本化されている。あるサイトに行くとか来客が必要な情報が一元化されている、というのは外国人が多くなってくれば必要であり、今後まとめていくことが重要である。
	地域のBF情報を提供した「バリアフリーマップ」の全区市町村への波及・内容の充実 ○現場における情報提供のみならず、事前情報収集の支援に対するニーズも高いことは、バリアフリーマップにつながる課題となる。
	その他 ○情報サービスというのは非常にありがたいが、大量に資料がある場合、点字で提供されてもその場ですべて読むのは難しい。資料を音声化できれば、受け取れる情報量も多くなるので、分量によっては音声化したほうがいいと思う。 ○視覚障害者にとっては、公的情報より、日常的な情報(スーパーのチラシ等)をどう保障していくかが大切。 ○災害時の情報提供は最大の課題であり、特に深める必要がある。 ○バリアフリーマップを作成してもどこに置かれているのかわからない、というように、取組しても本当に必要な人に伝わっていないことは多い。ホームページに掲載していても、高齢者など手段のない人は情報が得られない。どうやったら取組が浸透していくか、考えていく必要がある。 ○教育委員会でも文書の読み書きが苦手な人向けに文書講座を実施していたり、テーマを決めて、手話を使いながらわかりやすく情報提供を実施している。福祉分野に限らず、こういった取組を行っている教育委員会なども連携していくべき。 ○強度弱視者に対しては大活字による情報提供が必要である。 ○「情報のバリアフリー」というと、「当事者への情報」を提供することに議論が集中しがちだが、管理者側が「当事者の持つ情報」を収集する環境を整備することも重要である。

第1回専門部会意見一覧<心のバリアフリー>

審議テーマ		意見内容
公共空間で課題があると想定される事例	事例全般	<p>○思いやりがあれば解決するような内容ではない記述が多い。「譲り合い、お互いが気持ちよく使えるような呼びかけが必要」ということではないか。</p> <p>○「思いやり」の定義をしっかりとする必要がある。たとえば、不適正利用や罵声を浴びせるというのは人間としての問題であり、それらも「思いやり」の問題とすべきではない。</p>
	誘導ブロック上の放置自転車	○「視覚障害者用誘導ブロックの上に自転車が放置されている」について、民間駐車場から車体が歩道のブロック上にはみ出している自動車、陳列商品・看板による妨害等のケースも見受けられるため、自転車に限定しない表現が望ましい。
	エレベーターの順番待ち	○エレベーターでの車いす、ベビーカーの利用については、マナーの問題でもある。押す人が先にバックで入るなど、他の人に迷惑をかけないためにも、そういう教育も必要。
	交通機関への乗車拒否	○乗車拒否という表現は利用者の感覚に基づくものではないか。交通事業者としても、ジャストタイムでのサービスが困難な場合もあると想定されるので、どのような事柄を指しているのか教えていただきたい。
事業者等による取組事例	取組の内容について	○事業者の取組みについては、外部に出すのであれば、内容を吟味しないと都がお墨付きを与えた形になるので、慎重にすべきだと思う。
	フランチャイズチェーン協会の取組	○駆け込み寺の機能などを果たすセーフティステーションの実施や、入店から会計まで、障害者への買い物などのサポートを行っているところもある。
今後に向けた論点	心のバリアフリー全般	<p>○心のバリアフリーを進める前提として、差別に対する意識を高めることが必要。</p> <p>○心のバリアフリーで何を達成するかが大切だが、基本には合理的配慮の考え方をしっかり位置づけるべき。</p> <p>○よく三障害と言われるが、心のバリアフリーに係る取組を実施するに当たっては、発達障害なども含め、障害の範囲を広くとらえていく必要がある。ヨーロッパなどは国によってアレルギーまで含まれる。三障害にとらわれず、広く考えていくべき。</p>
	小中学生や地域住民に対するUD教育の全区市町村への波及・内容の充実	<p>○UD教育の全区市町村への波及は重要なテーマ。具体的な目標数値を設けて位置づけることが重要かと思う。</p> <p>○現在は、総合的な学習の時間等で、ほとんどの学校で車いす体験は実施されている。それにもかかわらず、思いやりの心の醸成の数値は少ない。実感する機会が少ないのだと思う。</p> <p>○心のバリアフリーに係る教育については、障害者の日常生活など、実際の面を見せるとよく理解してもらえる。また、障害者を障害者として理解するのではなく、人間としてどう見るか、ということが大事であり、小学校中学年だけの教育ではなく、5～6年の高学年まで継続して実施していくことが大事。</p> <p>○知的障害の場合、疑似体験ができないのと、説明による理解も限界があるので、交流教育など、小中学生へのUD教育の波及については、内容を充実させる必要がある。</p> <p>○心のバリアを解消するためには、小・中・高における啓発が極めて重要であるため、教育委員会からも担当者を専門部会に同席してもらう必要がある。</p>
	民間事業者向けの接遇向上に向けた取組の進め方	○民間事業者の研修のあり方のひとつとして、障害者が多数活動している特別支援学校や福祉施設に出向いていくような機会も重要
	その他	<p>○ヘルプマーク、ヘルプカードはありがたいが、普及啓発がまだ進んでいない印象。使う側も、見かける側も、両方がこのマークやカードの意味について認識していくことが大切。</p> <p>○知的障害者は、外見上は一見何の問題もなさそうでも、その場にいるだけで困っていることもある。見かけたらまず必要なところに連絡するという体制があると助かる。</p> <p>○情報提供手段はたくさん出てきたが、駅で筆談ボードがあると書いてあるがどこにあるかわからない、文字情報掲示板について、運行情報の出方がバラバラなど、最終的には人によるヘルプが重要になる。</p> <p>○妊婦やベビーカーなどの子育て者の交通行動(特に公共交通利用)における困難状況や課題について十分な理解が得られているとは言い難い。国の主な施策・動向等には触れられているが、都内における課題の現状認識としても明記するほうが良い。</p> <p>○障害については、身近で触れ合わないと理解ができないので、障害者が出かけたくなるようなまちづくりを目指す必要がある。</p> <p>○エスカレーターごとにスピードをわけていると、通常のものだとタイミングが計れない人も、遅いスピードのものに乗ることができるので、そういった配慮があるとありがたい。</p>